おひなまつりの記

東京市四谷幼稚園

大正九年三月二日午後一時より年中行事の一つなるお雛祭りをいたしました。

幼兒一同、いつもより少し早くおべんとうをすませて、時間の來るのを待つております。遊戯室の正面には、幔幕をはり、舞臺をこしらへ、お細工のお雛さまを飾つて、準備はとゝのひました。定刻になりますと、幼兒は、みな、にこ〳〵として遊戯室に集まり、お行儀よく餘興の始まるのを待つてをります。お招きいたしました母君姉君方も、椅子におつきになりました。

區長樣は、如何遊ばしたかとお待いたしてをりますと、區長樣は、お客樣が有て少し遲くなるとの事を園長先生よりお斷りになりました。何分にも活動性に富む幼兒のことゝて、待遠しくなり、あちらこちらに、ソロ〳〵お話がはじまるので、園長先生より餘興の番組の中にあるお母樣のお噺をくり上て今お話していたゞきませうとのお言葉に佐久間保姆は、例の優しき愛らしき聲にて、「己れの分を守れ」とのお噺を、おひな樣に例へていと面白くお話なさいましたので、幼兒もしばらくはお話の中にあつて靜かでしたが、それがすむと又ガヤ〳〵はじまる。早く區長樣のおいでがあればよいと氣をもむうち、漸くお見えになつたので、みんな靜まりかへる。此日の主人役酒井きん子孃は愛らしき口ぶりにて、「けふは私たちのお雛まつりですから皆さんと面白いことをして遊びませう佐久間先生にお母樣になつていたゞきます」と述ぶ。佐久間保姆お母樣となり、出演幼兒はお客樣となつて、大勢つれだつて「花子さん」とよびにくる。

花子「ハーイ、能く入らしつて下さいました。サア、どうぞこちらへ」と、お母樣共々の接待振り、まことにお上手でした。「みなさんおそろひになりましたから、御一所にお雛さまの歌を唱ひませう」とのお母樣のお言葉に、全員にて歌ふ。夫よりは、お母樣のお名指に依り、かわる〴〵舞臺に上りて、お得意の遊戯や唱歌をいたしました。

まづ第一番は、松の組(年長兒)の女四人、めい〳〵人形をだいて人形の歌を上手に唱ひました。第二番は、梅の組(年少兒)の男の獨唱(桃の中から)之も極めて上出來でした。次は梅の女の、はとぽつぽの遊戯、松の男の三人唱(進軍)、松と竹の女の對唱(小さい子)、松の女の遊戯(おどれ)、竹の女の遊戯、竹の男の獨唱など、唱歌は勇ましく又優美に、遊戯は活潑に面白く、プログラム進みゆき、大黑サマト白兎の對話遊戯となる。最初に、長いお耳の兎さんが出て來て、舞臺の左方にすわり泣てゐる。ところへ、大きな袋を肩にかけた大黑サマが出て來て、對話があり、大黑サマガ退場すると、兎さんは正面になをり、歌(獨唱)大黑サマのいふとほりの一節を唱ふる間、兎は動作遊戯を爲し、歌終り挨拶して引下る。此一場中々能く出來たれど、對話の聲が少し低かつたので、後の人には聞えなかつた事であらふと、をしき心地致しました。獨唱はよく出來ました。次に梅の畔上義太郎君(五歳)が、お福面をかぶつて、全員が唱ふる「今日はうれしいひなまつり」の歌に合せて、手ぶり足拍子面白く踊るさまの愛らしきに、區長樣始め母君姉君方もお腹を抱へ拍手喝采しばらくは鳴も止まず、當日第一等の出來でした。お客樣になつた幼兒のお禮につゞいて、主人役の花子さんがおしまひの挨拶をして、愉快に賑はしく餘興終る。區長樣が、幼兒にわかり易い簡單なる訓話を遊ばしてお歸りになる。

幼兒はお待かねのお豆いりを頂き、大にこ〳〵にて嬉しさうに、ほをばる。その無邪氣さ實に何ともたとへやうもない愛らしき樣子に、自分達もみなつりこまれて心からにこ〳〵しました。おみやげには、お細工のお雛さまを頂き、嬉々として元氣よく歸りました。母君姉君方は、お雛樣の飾りある梅の室にて、園長先生と親しく懇談遊ばされ、悅びにみちた幼き人の手をひきおかへりになる。あゝ桃の蕾にも似たる愛らしき幼女達よ、やがて美しき花咲き實を結びかぐりなきまで榮えよかし。行末長く幸あれかしと祈りつゝ、今日の感想をつゞりました。

(四谷幼稚園の若き母誌)